

県央産技校生に実技講習

青年部会が分水作業を指導



中村理事長

宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）は3日、平出工業団地の管工事会館で県立県央産業技術専門校の建築設備科1年生6人を対象に「分水作業実技講習会」を開催した。宇管工は青年部会（廣田勝義部会長）の16人が指導した。中村理事長は「適正な分水作業を行うには配管技能士の資格がなければ施工できない地域もある。市も現在検討中で、間違いない資格なしには分水作業ができないことになる。講習会は貴重な実体験の場となるため真剣に受講していただきたい」とあいさつ。

R8.3.5

栃木建設新聞



参加者全員で記念撮影

座学の講師は黒崎丈博青年部会理事が担当。「水道の大切さ」と題し市の水道の歴史、水道水を作る仕組みや管路の維持修繕作業、災害時の応急復旧活動などについて説明した。続いてサドル分水栓の施工



分水穿孔・蛇口操作体験

工について動画を視聴。各工程のポイントや注意点を確認した。クボタケミックスの担当者から配水管の種類について紹介。特に水道配水用ポリエチレン管の軽量で柔軟性、耐食性、耐震性、経済性などに優れた点を解説。訓練生は実物のポリエチレン管にも触れ、特徴を確認した。

実技は組合駐車場で実施。訓練生は2人1組に分かれ分水穿孔・蛇口操作を体験。肌寒い雨の中、青年部会の講師らと親睦を深めながら積極的に取り組んだ。

実技後の講評で古沢和夫教授は「学校での大規模な実習が難しい中で毎年講習会を開催してもらっている。講習会を機に水を観点にした仕事、設備業の道に進んでもらいたい」と訓練生に呼び掛けた。

質疑応答では訓練生が会社の福利厚生や求める資格などについて率直に質問。青年部会は一人一人に丁寧に答え、就職活動でも正直に聞くことや伝えることが重要だと指南した。

廣田部会長は「講習で楽しかった部分を忘れずに今後も励んでほしい。自分が活躍できる就職先をぜひ市内から選んでもらいたい。また現場で会いましょう」と笑顔で語り閉会した。

実技講習会は企業の実践技能者から技術を学ぶことによる技能習得意欲と就業意欲の向上、建築設備業に携わる人材育成が目的。